

事業番号	4	事業名	革新的細胞解析研究プログラム（セルイノベーション）
------	---	-----	---------------------------

## 評価結果

### ・ 事業内容の改善

事業全体の抜本的改善	1名
事業内容の改善	4名
現状通り	1名

## とりまとめコメント

本事業については、「事業内容の改善」が4名、「事業全体の抜本的改善」が1名、「現状通り」が1名、との結論を踏まえ、「事業内容の改善」という結論としたいと思います。

「事業内容の改善」の主なコメントは、

- ① 全て公募で選定すると非効率になる場合があるので、選考方法等を見直すべき。
- ② 大型装置の導入を、陳腐化することを踏まえ、導入計画に基づき計画的に進めるとともに事業終了後にも配慮すべき。
- ③ 先導研究の選択は、より戦略的な国のビジョンに基づくべき。

とのコメントがありました。

## 評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

- シーケンス拠点として理研横浜にDNAシーケンサーを集約したことはやむを得ないが、装置が陳腐化した場合のリプレイスに課題を残している。事業終了後にヒトとモノの効率的運用が実施可能な予算を別途措置することを提言する。
- 理研（シーケンサー）、情報・システム機構（解析）を基盤とした研究フォーメーションは効率的と判断されるが、個別研究がすべて公募選定であると、①選定期間、事務コストでのロス、②公募と言っても研究者はほぼ決定している、という2点で非効率となるのではないか。実験、研究補助者の雇用期間設定も含め、公募方式の原則を見直す必要があるのではないか。（成長戦略の一つとしても）
- 先導研究の選択は、より戦略的な国としてのビジョンに基づいて行うべきで、必ずしも公募である必要はない。公募するにしても、その研究領域について、範囲を限定する方が良いと思う。
- 拠点の維持と更なるパワーアップは必要である。
- 今後も継続して新しい先導研究の課題をより戦略的に設定すべき。

- シーケンス拠点、データ解析拠点、先導研究について公募を行ったと聞いているが、プログラムの方向性が広く、有機的な繋がりが見えにくい。最終年度なので、この辺も厳しく評価してもらいたい。
- シーケンサーなどの高額ハードウェアを導入する場合には、補正予算で特定年度に一度に導入してしまうと、同時期に陳腐化してしまうので、明確な導入計画に基づき計画的に行うべき。
- 人材育成について他事業との比較を行った上で優れているのであれば横展開すべき。
- この事業には意味があると評価できるが、次に続けて行かなければならない説明は今日の時点ではなされていない。
- 25年7月に外部有識者による事後評価結果が出されるので明確なことは分からないが、説明を聞いた範囲では問題ないと思う。